

第1章 日本で開催された国際会議の動向

	はじめに ～ 2020年JNTO国際会議統計の発行に当たって	2頁
	本章で使用する「JNTO国際会議統計」について	4頁
1	年別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数、開催延べ日数）	5頁
2	規模別 国際会議の開催状況①（開催件数、平均外国人参加者数）	6頁
3	規模別 国際会議の開催状況②（中・大型国際会議の開催件数、外国人参加者数）	7頁
4	分野別 国際会議の開催状況（開催件数、外国人参加者数）	8頁
5	月別 国際会議の開催状況①（開催件数）	9頁
6	月別 国際会議の開催状況②（外国人参加者数）	10頁
7	都市別 国際会議の開催状況①（参加者数）	11頁
8	都市別 国際会議の開催状況②（外国人参加者数）	12頁
9	都市別 国際会議の開催状況③（開催件数）	13頁
10	会場別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数）	14頁

はじめに ～ 2020年 JNTO 国際会議統計の発行に当たって

2020 年は COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な拡大の影響により、国際会議の開催可否や態様等に甚大な影響が及びました。日本においても、外国からの渡航が全面的に原則停止され、かつ社会的な人と人との接触への大規模な自粛要請がなされたことから、要請対象地域のみならず、日本全国においても国際会議の開催は事実上困難な状況に陥りました。

この結果、昨年過去最高を記録した 3,621 件から一転して 2020 年は 222 件へ激減し、参加者総数も 2 百万人（1,993,790 人）近くから 10 万人未満（96,271 人）にまで急減した結果、いずれも現行基準の下で過去最低となりました。

2020 年は、上述の通り特殊な環境変化に直面した 1 年となりましたが、本統計の作成にあたっては、統計としての連続性を図る観点から、従来通りの基準に基づき集計を行い、本統計掲載の各種国際会議データを分析したもので、冒頭で記した国際会議件数および参加者総数は本基準を満たした国際会議のみにかかる実績となっています。

このため、本統計で集計の国際会議データは、日本全国から収集した 2020 年の国際会議開催情報の一部に留まるという結果となりました。

もっとも、国際会議の JNTO 基準を満たすか否かを問わず、COVID-19 によって巻き起こされた本邦における国際会議開催への影響の実態を知ることは、国際会議関係者にとって、今後の開催検討等にあって意義のあることと認識します。

そこで、本統計の本編に先立ち、JNTO が今般全国から収集したデータに基づき、2020 年の日本における国際会議開催状況に COVID-19 が及ぼした影響の実態につき、その傾向を把握すべく努めた結果として以下の通り概説することとします。

注：基準外の国際会議データについては、基準内国際会議のような個別の内容確認を経ていないため、以降記載の各データは未精査の参考数値であることにつき予めご理解ください。

COVID-19 による影響の概要

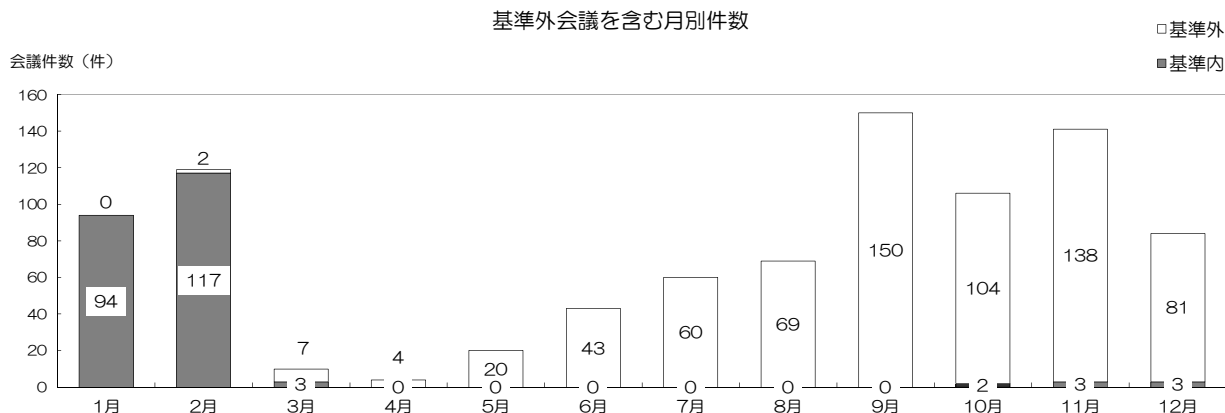
2020 年 2 月以降順次に入国拒否や検疫強化、査証無効化等の水際措置が開始され、その強化・拡大とともに国際会議開催件数は目に見えてその数を減じました。

この水際措置の強化により、相当数の会議が中止や延期を余儀なくされたものの、主催者等がテレビ会議やインターネット等を介した何らかのオンライン手法を活用した会議（以下、「リモート会議」という。）を開催し始めたことにより、開催態様がリモート会議中心にシフトしていったことも窺えました。

具体的には、実際には会場での参加が不可能であったため、現行の定量基準（「日本を含む 3 居住国・地域以上」、「参加者総数 50 名以上」）を満たさず、本統計の実績としては計上に至らなかった会議のうち、リモート形式による参加者がもし実際に会場に出席していれば上記定量面は満たし得た会議が少なくとも 678 件あったことが分かっています。

これらは COVID-19 による水際措置が仮に実施されていなければ、本来は 222 件という本統計上の国際会議件数に加えて（仮に定性基準を満たし得たなら）加算され得たとも考えられ、これを加味して試算すれば基準を満たし得た会議の件数は、900 件となっていたことが推認されます。

この900件の月別の開催件数をまとめますと、以下グラフのようになります。



水際措置の実施前である1月及び2月に開催されたものが213件と全体の約24%となり、COVID-19の影響は比較的少なかったものと思われませんが、3月に10件と一度数を減じた後に5月以降は再び件数が増加していることが分かります。

これによれば、3月、4月には直ちにリモート開催への対応が難しく、5月以降リモート会議へのシフトが進み、これが徐々に浸透してきた様子が伺えます。

このように、2020年の国際会議については、上述の水際措置が開始されたことで、海外からの参加者を確保できず、国際会議基準の1つである定量基準を満たすことが困難であったことが窺えますが、上記の900件という開催件数も2019年実績である3,621件の僅か4分の1程度であったことから、リモート開催を加味しても開催のハードルが高かったであろうことが推測されます。

注： 既述のとおり、上記の国際会議基準未達の会議データについては、内容の精査を経ない参考数値であるため、付随的にICCA（国際会議協会）作成の公表統計内容を以下紹介します。

ICCAによると、2020年における世界全体の国際会議件数は前年比94%減の763件。同団体では情報収集、集計方法を変更した結果、例年のランキングに代えて、COVID-19による影響結果について、「影響なし」が1割程度、「オンライン」が3割、「延期」が4.5割、「中止」が1.5割程度であったと公表しています。（23ページ 図表2-8参照）

以上のように、JNTOではCOVID-19の影響が甚大であった2020年の統計作成にあたっては、現行の基準を維持することとして会議データの集計・分析を行いました。これは、COVID-19の国際会議開催状況に及ぼした影響度を客観的に示すという統計の連続性を維持するとともに、2021年以降の回復の程度を測るという中期的な意義をも有するものと考えております。

2021年の国際会議も、世界的なCOVID-19蔓延の影響を受けたデータとなることは必至であり、JNTOでは引き続き国際会議の開催状況を注視してまいりたいと考えます。

以上

本章で使用する「JNTO 国際会議統計」について

本章は、日本政府観光局（JNTO）が、関係府省庁、自治体、コンベンション推進機関などのご協力を得て国際会議の開催情報を収集し、そのデータを集計・分析したもので、日本で開催された国際会議の概要を把握する唯一の指標となっています。なお、本章のデータは、以下の選定基準に基づいて集計しています。

国際会議の選定基準

対象とするもの

*以下の①～④を全て満たす国際会議を、「国際会議」とします。

- ①主催者：「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」又は「国家機関・国内団体」（各々の定義が明確ではないため、「公共色を帯びていない民間企業」以外は全て。）
- ②参加者総数：50名以上
- ③参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
- ④開催期間：1日以上

対象にならないもの

1. 開催目的 主催団体による営利活動や内部活動としての会合や集会
 - 営利活動を目的とするもの
例：企業内会議、商談、勧誘・宣伝活動（投資セミナー、観光セミナー、留学支援セミナー）
 - 主催団体の内部活動
例：教育機関がカリキュラムの一環として行う授業や講義、カルチャースクール等の教育文化活動プログラム、団体内の研修会、宗教団体の儀式・集会・勧誘
2. 開催の様態 会議や講演会の実態がない会合や集会
 - 興行上のサービス
例：コンサート、映画上映会、舞台挨拶 ※付随するトークショーも興行上のサービスとみなします。
 - 単なるセレモニー
例：開会・閉会式、〇〇周年記念式典
 - 上位会議の分科会
例：学会開催時における個別の分科会、大規模フォーラムの個別セッション
 - 単なるイベント
例：展示会、スポーツ大会、国際交流パーティー
3. その他
以下の情報が不足している会議も対象外となります。
 - 「参加国数」、「国内参加者数」、「海外居住外国人参加者数」の内訳（「展示会が主体となっており、その中に組み込まれている会議」においては、展示会全体ではなく会議そのものの上記情報）
 - 一般に公開されているセミナー、シンポジウム、討論会のうち、海外に居住する講師や参加者を招聘・募集したことを示す資料

国際会議参加者の取り扱い

- 外国人参加者数には、国際会議の出席を目的に来日した会議代表、オブザーバー、同伴家族を含みます。但し、報道関係者、在日外国人（留学生を含む）は含めません。

国際会議開催日数の取り扱い

- 国際会議開催日数には、会議の前後または合間の日に開催されるレセプション、視察旅行、観光旅行を含めず、純粋な会議日数のみを計上しています。（但し2011年～2014年は会議の前後または合間の日に開催されるレセプション、視察旅行、観光旅行を含めて計上しています。）

1

年別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数、開催延べ日数）

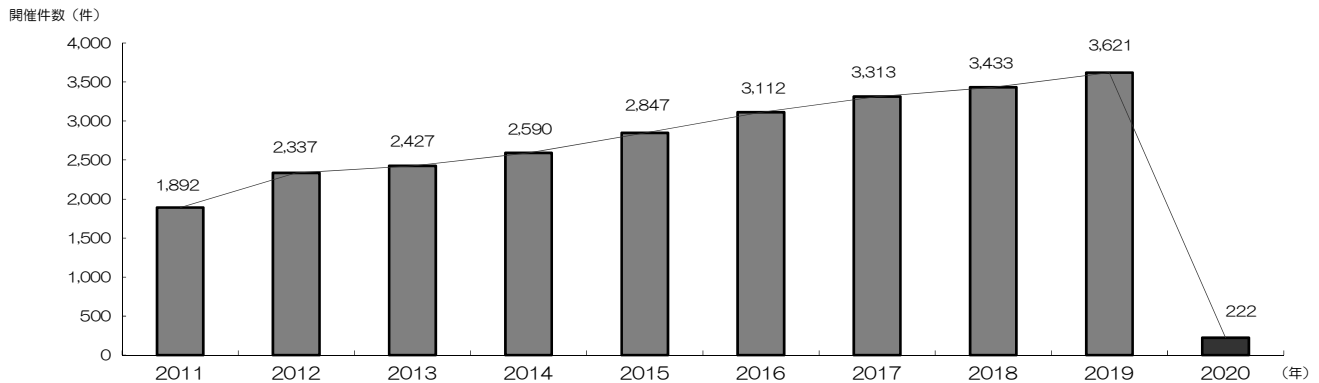
— COVID-19に伴う水際措置により9割超の激減 —

2020年に日本で開催された国際会議の件数は、COVID-19感染拡大に伴う日本政府の水際措置等の影響により対前年比93.9%減の222件に激減した。参加者総数も95.2%減の96,271人、外国人参加者数も96.9%減の6,603人で、いずれも現行基準下で過去

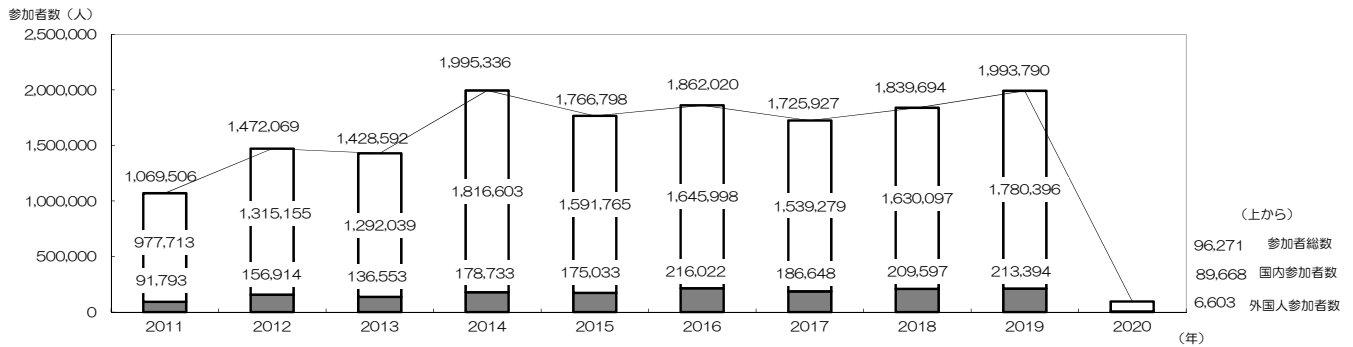
最低となった。

国際会議1件あたりの平均開催日数は前年より0.06日減の2.23日、開催延べ日数は対前年比94%減の494日であった。

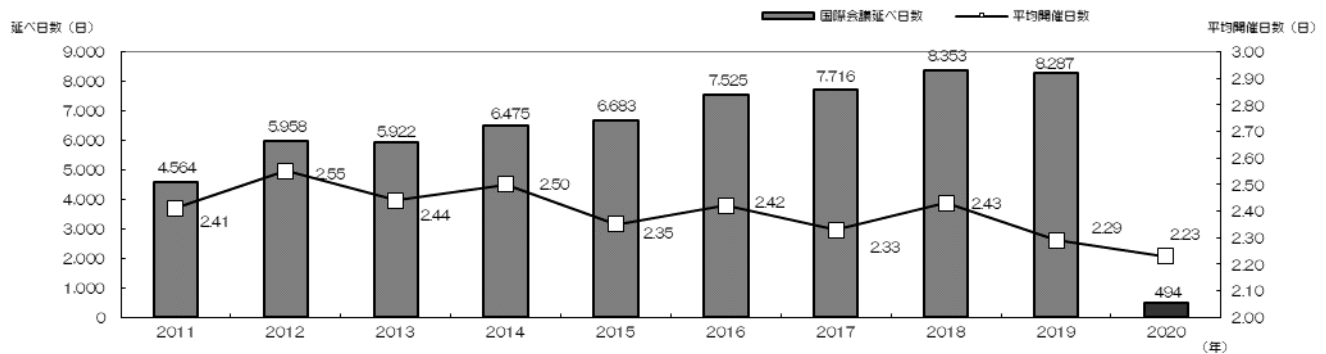
図表1-1 年別 国際会議の開催件数（2011年～2020年）



図表1-2 年別 国際会議の参加者数（2011年～2020年）



図表1-3 年別 国際会議の開催延べ日数、平均開催日数（2011年～2020年）



〔図表1-2〕注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

2

規模別 国際会議の開催状況① (開催件数、平均外国人参加者数)

－ 7割超が300人未満の会議 －

2020年に開催された国際会議を規模別に見ると、300人未満の小規模会議の開催件数が7割以上を占める傾向は昨年と同じであったが、昨年の71.2%から76.6%へ微増となった。

図表1-4 規模別 国際会議の開催件数 (2011年～2020年)、平均外国人参加者数 (2020年)

参加者総数	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年 1件あたりの平均外国人参加者数
100人未満	499	601	648	694	850	980	1,170	1,176	1,302	88	17.3
100～199人	538	655	721	726	743	813	859	834	912	60	19.8
200～299人	228	285	300	358	334	389	380	386	364	22	33.5
300～399人	136	182	172	180	184	203	181	216	217	14	62.1
400～499人	73	88	92	100	114	116	109	121	116	5	19.4
500～599人	53	80	78	79	91	103	87	94	99	5	44.6
600～699人	45	49	48	54	59	67	53	89	83	4	23.3
700～799人	33	33	29	25	46	33	36	37	50	3	19.7
800～899人	24	38	40	31	33	44	39	39	40	1	98.0
900～999人	15	23	22	13	31	17	25	40	33	2	258.0
1000～1099人	44	43	31	44	29	37	58	71	51	3	18.0
1100～1199人	10	13	12	10	11	16	17	19	17	2	452.0
1200～1299人	18	19	20	19	26	21	21	21	25	1	3.0
1300～1399人	11	13	6	7	12	8	18	9	7	1	9.0
1400～1499人	6	6	7	8	5	6	13	18	17	0	-
1500～1599人	13	16	16	18	25	18	18	17	26	0	-
1600～1699人	5	10	10	6	6	14	9	16	13	0	-
1700～1799人	3	7	6	4	14	5	5	6	10	0	-
1800～1899人	6	6	6	15	9	16	14	10	17	0	-
1900～1999人	3	3	4	7	7	2	5	4	10	0	-
2000人以上	129	167	159	192	218	204	196	210	212	11	21.2
合計	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222 (件)	29.7 (人)

図表1-5 規模別 国際会議の開催件数 構成比 (2011年～2020年)

参加者総数	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
100人未満	26.4	25.7	26.7	26.8	29.9	31.5	35.3	34.3	36.0	39.6
100～199人	28.4	28.0	29.7	28.0	26.1	26.1	25.9	24.3	25.2	27.0
200～299人	12.1	12.2	12.4	13.8	11.7	12.5	11.5	11.2	10.1	9.9
300～399人	7.2	7.8	7.1	6.9	6.5	6.5	5.5	6.3	6.0	6.3
400～499人	3.9	3.8	3.8	3.9	4.0	3.7	3.3	3.5	3.2	2.3
500～599人	2.8	3.4	3.2	3.1	3.2	3.3	2.6	2.7	2.7	2.3
600～699人	2.4	2.1	2.0	2.1	2.1	2.2	1.6	2.6	2.3	1.8
700～799人	1.7	1.4	1.2	1.0	1.6	1.1	1.1	1.1	1.4	1.4
800～899人	1.3	1.6	1.6	1.2	1.2	1.4	1.2	1.1	1.1	0.5
900～999人	0.8	1.0	0.9	0.5	1.1	0.5	0.8	1.2	0.9	0.9
1000～1099人	2.3	1.8	1.3	1.7	1.0	1.2	1.8	2.1	1.4	1.4
1100～1199人	0.5	0.6	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.9
1200～1299人	1.0	0.8	0.8	0.7	0.9	0.7	0.6	0.6	0.7	0.5
1300～1399人	0.6	0.6	0.2	0.3	0.4	0.3	0.5	0.3	0.2	0.5
1400～1499人	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.5	0.5	0.0
1500～1599人	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	0.6	0.5	0.5	0.7	0.0
1600～1699人	0.3	0.4	0.4	0.2	0.2	0.4	0.3	0.5	0.4	0.0
1700～1799人	0.2	0.3	0.2	0.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.3	0.0
1800～1899人	0.3	0.3	0.2	0.6	0.3	0.5	0.4	0.3	0.5	0.0
1900～1999人	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.0
2000人以上	6.8	7.1	6.6	7.4	7.7	6.6	5.9	6.1	5.9	5.0

[図表1-4の平均外国人参加者数] 注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

[図表1-5] 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

3

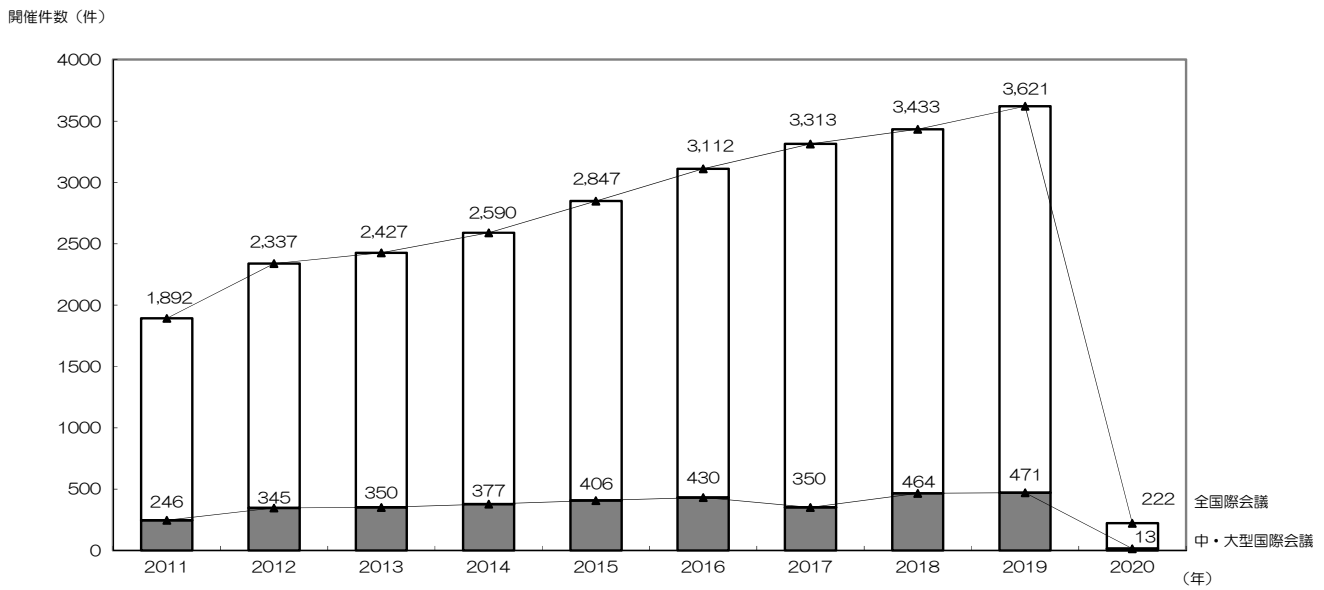
規模別 国際会議の開催状況② (中・大型国際会議の開催件数、外国人参加者数)

— 中・大型国際会議の外国人参加者数が4割近くを占有 —

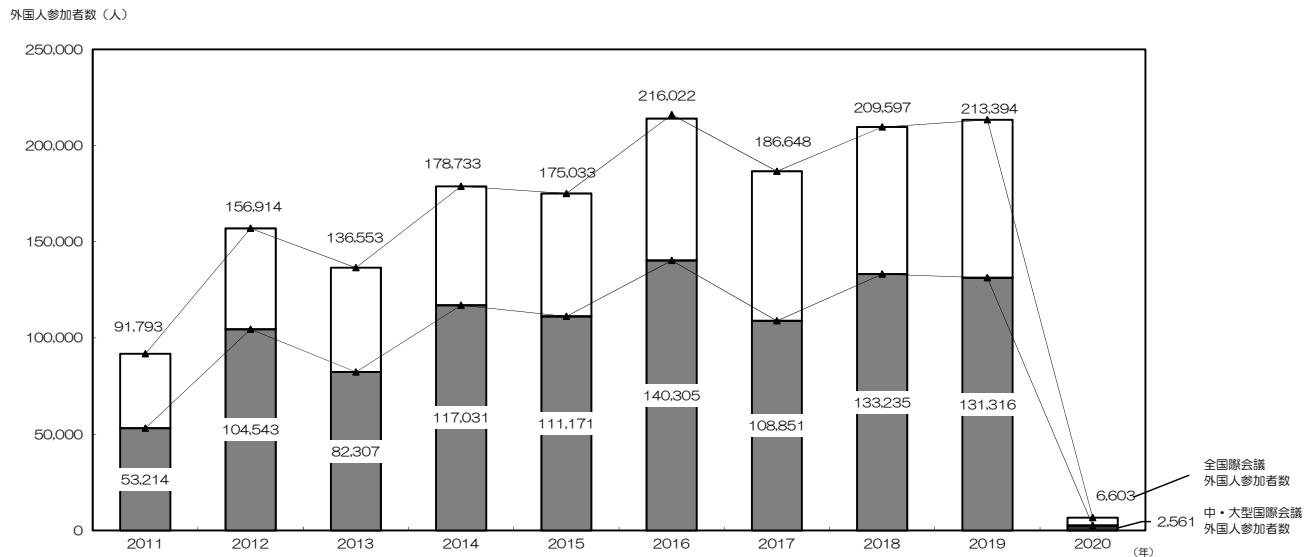
2020年の中・大型国際会議《注参照》の開催件数は13件(対前年比97.2%減)となり現行基準下で過去最低を記録した。外国人参加者数は2,561人(対前年比98.1%減)であった。中・大型国

際会議は全件数に占める割合は5.9%であるのに対し、外国人参加者数では38.8%を占めており、少ない件数でもインバウンド推進に資するため、中・大型国際会議の誘致は効果的という特長が見取れる。

図表1-6 国際会議の開催件数と中・大型国際会議の開催件数(2011年~2020年)



図表1-7 国際会議の外国人参加者数と中・大型国際会議の外国人参加者数(2011年~2020年)



注 中・大型国際会議：外国人参加者数50人以上、および、参加者総数300人以上の会議

[図表1-6、1-7] 注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

4

分野別 国際会議の開催状況（開催件数、外国人参加者数）

－ 「科学・技術・自然」が外国人参加者数で6割を占める －

分野別の国際会議の開催件数、構成比をみると、「科学・技術・自然」が108件で全体の半数近くを占めた。

外国人参加者数でも、「科学・技術・自然」が3,970人と全

体の6割を占めている。「医学」は件数（39件）では2位だが、外国人参加者数（481人）では4位となった。

図表1-8 分野別 国際会議の開催件数、構成比（2011年～2020年）

※上段：件数、下段：構成比（%）

分野	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
政治・経済・法律	163 (8.6)	245 (10.5)	285 (11.7)	291 (11.2)	249 (8.8)	316 (10.2)	361 (10.9)	378 (11.0)	435 (12.0)	25 (11.3)
科学・技術・自然	899 (47.5)	1,015 (43.4)	1,077 (44.4)	1,085 (41.9)	1,222 (42.9)	1,421 (45.7)	1,415 (42.7)	1,395 (40.6)	1,507 (41.6)	108 (48.7)
医学	401 (21.2)	495 (21.2)	480 (19.8)	482 (18.6)	546 (19.2)	577 (18.5)	589 (17.8)	702 (20.5)	631 (17.4)	39 (17.6)
産業	55 (2.9)	111 (4.8)	119 (4.9)	159 (6.1)	128 (4.5)	119 (3.8)	124 (3.7)	165 (4.8)	163 (4.5)	5 (2.3)
芸術・文化・教育	217 (11.5)	220 (9.4)	253 (10.4)	344 (13.3)	337 (11.8)	344 (11.1)	396 (12.0)	446 (13.0)	481 (13.3)	20 (9.0)
社会	68 (3.6)	150 (6.4)	93 (3.8)	111 (4.3)	193 (6.8)	184 (5.9)	260 (7.9)	204 (5.9)	210 (5.8)	13 (5.9)
運輸・観光	12 (0.6)	10 (0.4)	20 (0.8)	19 (0.7)	24 (0.8)	14 (0.5)	34 (1.0)	28 (0.8)	33 (0.9)	4 (1.8)
社交・親善	19 (1.0)	26 (1.1)	37 (1.5)	47 (1.8)	70 (2.5)	72 (2.3)	46 (1.4)	47 (1.4)	32 (0.9)	2 (0.9)
宗教	8 (0.4)	2 (0.1)	4 (0.2)	4 (0.2)	7 (0.3)	8 (0.3)	9 (0.3)	6 (0.2)	11 (0.3)	0 (0.0)
スポーツ	9 (0.5)	9 (0.4)	8 (0.3)	6 (0.2)	19 (0.7)	17 (0.6)	29 (0.9)	20 (0.6)	37 (1.0)	0 (0.0)
その他	41 (2.2)	54 (2.3)	51 (2.1)	42 (1.6)	52 (1.8)	40 (1.3)	50 (1.5)	42 (1.2)	81 (2.2)	6 (2.7)
合計	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222

図表1-9 分野別 国際会議の外国人参加者数（2011年～2020年）

分野	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
政治・経済・法律	7,167	20,242	13,454	18,964	13,472	17,803	22,547	28,255	24,403	541
科学・技術・自然	46,482	62,176	63,144	71,019	79,113	80,796	75,682	90,335	93,490	3,970
医学	18,488	30,038	30,323	43,734	35,012	48,404	40,246	43,586	35,735	481
産業	4,342	20,333	8,836	12,051	11,072	13,138	9,421	13,447	12,741	117
芸術・文化・教育	7,200	7,259	10,698	18,941	20,186	25,938	21,081	17,436	20,184	990
社会	2,115	9,923	5,406	6,986	6,328	7,388	8,329	5,849	5,684	242
運輸・観光	596	1,163	1,035	1,115	2,210	993	1,811	954	2,270	88
社交・親善	592	1,296	938	1,930	2,253	16,653	1,296	4,784	3,463	5
宗教	464	828	27	234	172	922	533	562	2,760	0
スポーツ	928	1,672	689	1,159	906	1,920	1,373	2,559	3,808	0
その他	3,419	1,984	2,003	2,600	4,309	2,067	4,329	1,830	8,856	169
合計	91,793	156,914	136,553	178,733	175,033	216,022	186,648	209,597	213,394	6,603

[図表1-8] 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

[図表1-9] 注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

5

月別 国際会議の開催状況 ① (開催件数)

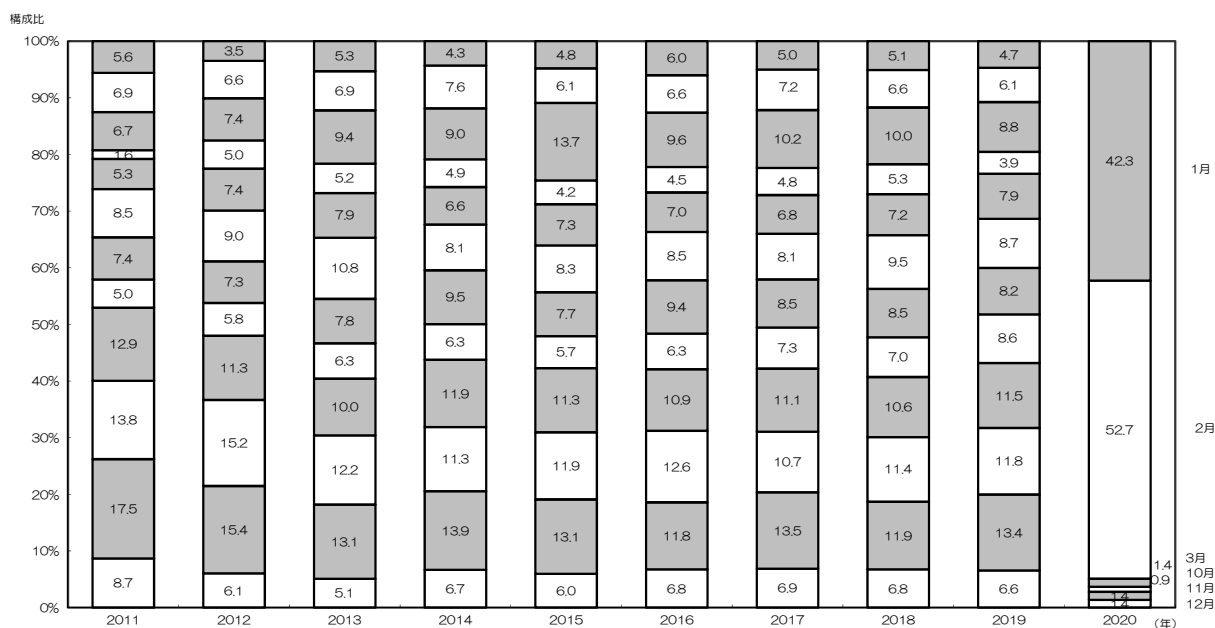
— 3月以降は殆ど開催なし —

2020年の国際会議はCOVID-19の影響により3月以降は殆ど開催されず、最も多かった2月の117件だけで年間の過半数に及び、次ぐ1月の94件を加えた2か月の合計は全体の95%となった。

図表1-10 月別 国際会議の開催件数 (2011年~2020年)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1月	106	82	129	111	136	187	164	174	169	94
2月	131	154	167	197	175	205	239	228	221	117
3月	127	173	227	233	391	300	338	342	317	3
4月	31	116	126	126	119	140	159	183	141	0
5月	100	172	191	170	207	219	224	248	285	0
6月	160	210	261	210	235	264	270	326	315	0
7月	140	171	190	247	218	291	281	292	297	0
8月	95	136	153	163	163	196	241	241	311	0
9月	244	264	243	308	321	338	368	364	416	0
10月	261	356	297	292	339	393	354	392	426	2
11月	332	360	319	360	372	367	446	410	484	3
12月	165	143	124	173	171	212	229	233	239	3
合計	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222

図表1-11 月別 国際会議の開催件数の構成比 (2011年~2020年)



[図表1-10、1-11] 注：国際会議が月をまたがって開催されている場合、開催日数が多いほうの月に計上した。また、この場合、開催日が前の月と後の月で同数であれば前の月に計上した。

[図表1-11] 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

6

月別 国際会議の開催状況 ② (外国人参加者数)

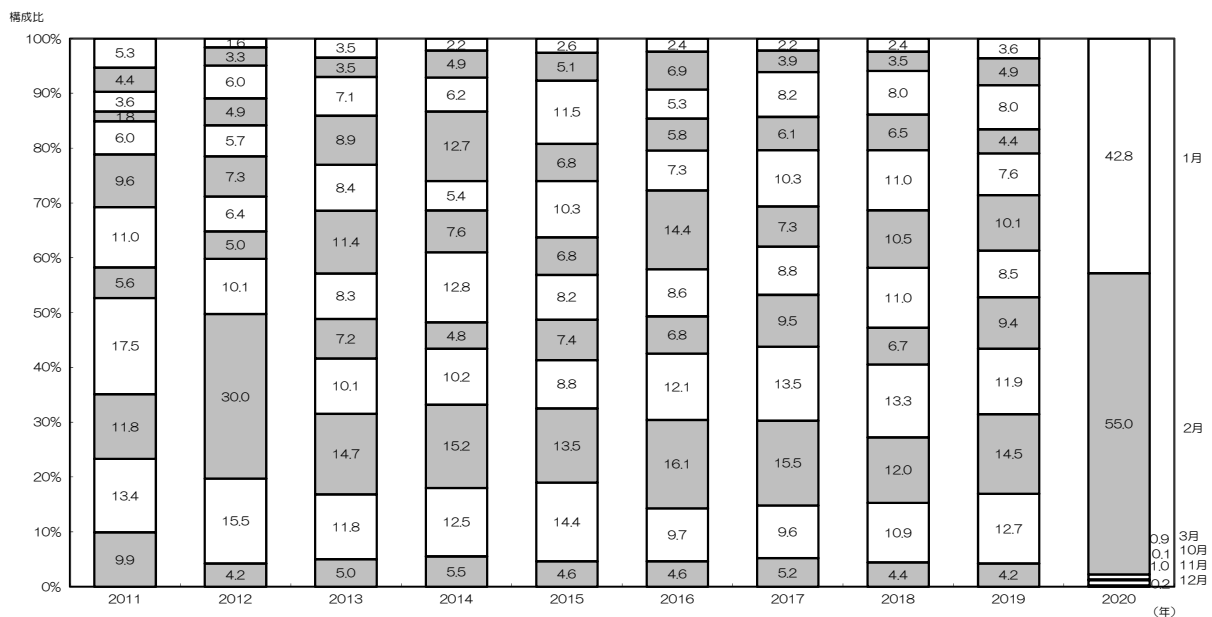
－ 1月と2月の2か月で年間の98%を占める －

2020年の国際会議の外国人参加者（海外居住者）数は最も多い2月の3,633人（前年同月比65%減）と1月の2,828人（前年同月比63%減）の2か月で年間の外国人参加者数の97.8%を占めた。

図表1-12 月別 国際会議の外国人参加者数（2011年～2020年）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1月	4,876	2,472	4,846	3,923	4,560	5,242	4,094	4,957	7,745	2,828
2月	4,059	5,188	4,730	8,745	8,886	15,004	7,288	7,375	10,398	3,633
3月	3,312	9,455	9,724	11,083	20,174	11,399	15,360	16,757	17,131	57
4月	1,643	7,758	12,117	22,777	11,968	12,458	11,368	13,619	9,376	0
5月	5,483	8,881	11,452	9,618	18,052	15,842	19,179	23,038	16,285	0
6月	8,826	11,489	15,624	13,603	11,944	31,085	13,653	21,982	21,627	0
7月	10,137	10,112	11,371	22,887	14,410	18,515	16,424	22,963	18,194	0
8月	5,170	7,886	9,810	8,658	12,873	14,660	17,702	13,961	20,055	0
9月	16,063	15,779	13,859	18,153	15,331	26,116	25,175	27,839	25,455	0
10月	10,825	47,023	20,069	27,178	23,646	34,812	28,846	25,078	30,967	7
11月	12,289	24,299	16,064	22,315	25,148	21,055	17,932	22,861	27,116	67
12月	9,110	6,572	6,887	9,793	8,041	9,834	9,627	9,167	9,045	11
合計	91,793	156,914	136,553	178,733	175,033	216,022	186,648	209,597	213,394	6,603

図表1-13 月別 国際会議の外国人参加者数の構成比（2011年～2020年）



〔図表1-12、1-13〕注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

〔図表1-12、1-13〕注：国際会議が月をまたがって開催されている場合、開催日数が多いほうの月に計上した。また、この場合、開催日が前の月と後の月で同数であれば前の月に計上した。

〔図表1-13〕注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

7

都市別 国際会議の開催状況 ① (参加者数)

— 外国人参加比率では別府市がトップ (上位 15 都市・地区内) —

2020年の都市別外国人参加者数は、東京(23区)(1,620人)、北九州市(1,083人)、京都市(562人)の順で、参加者総数では京都市(29,716人)が最も多かった。

外国人参加者数の上位15都市・地区で見ると、外国人参加比率は、別府市(66.7%)が最も高く、次いで北九州市(58.4%)、宇治市(53.9%)、柏市(37.8%)、淡路市(32.3%)の順となった。
(都市別の参加者数詳細は「資料編1」参照)

図表1-14 都市別 国際会議の参加者数(2020年)〈上位15都市・地区を抜粋〉

	外国人参加者数	参加者総数	外国人参加比率 (%)
東京(23区)	1,620	15,544	10.4
北九州市	1,083	1,853	58.4
京都市	562	29,716	1.9
横浜市	555	19,882	2.8
福岡市	401	4,806	8.3
大阪市	374	2,512	14.9
神戸市	302	6,567	4.6
千里地区(注1)	252	1,686	14.9
仙台市	242	2,483	9.7
別府市	200	300	66.7
名古屋市	140	730	19.2
淡路市	111	344	32.3
沖縄地区(注2)	106	381	27.8
柏市	98	259	37.8
宇治市	96	178	53.9

注1:「千里地区」は、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を含む。

注2:「沖縄地区」は、那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市を含む。

注3:1つの国際会議が複数の都市にまたがって開催された場合、参加者数(外国人参加者数、参加者総数)は原則的に各都市で参加した人数を計上している。

8

都市別 国際会議の開催状況② (外国人参加者数)

— 北九州市が2位に浮上 —

2020年の都市別外国人参加者数は、大きく減少したが3年間の上位を都市別で見ると、東京(23区)の首位に続き北九州市が

2位に浮上した。他は、ほぼ同じ都市名が並んだ。他方、新たに、千里地区と別府市がランクインした。

図表1-15 都市別 国際会議の外国人参加者数(2018年~2020年)〈各年の上位10都市を抜粋〉

順位	2018年	外国人参加者数	2019年	外国人参加者数	2020年	外国人参加者数
1位	東京(23区)	56,960	東京(23区)	42,398	東京(23区)	1,620
2位	京都市	32,449	京都市	30,585	北九州市	1,083
3位	横浜市	16,579	横浜市	27,919	京都市	562
4位	神戸市	13,632	神戸市	15,641	横浜市	555
5位	福岡市	11,807	福岡市	11,590	福岡市	401
6位	北九州市	9,389	大阪市	11,060	大阪市	374
7位	名古屋市	7,099	名古屋市	9,646	神戸市	302
8位	札幌市	6,780	札幌市	8,218	千里地区(注1)	252
9位	大阪市	6,553	北九州市	7,947	仙台市	242
10位	仙台市	5,915	広島市	6,642	別府市	200

注1:「千里地区」は、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を含む。

注2:1つの国際会議が複数の都市にまたがって開催された場合、参加者数(外国人参加者数、参加者総数)は原則的に各都市で参加した人数を計上している。

9

都市別 国際会議の開催状況③（開催件数）

— 各都市とも激減して10件以下へ —

2020年の都市別の開催件数を見ると、各都市ともCOVID-19の影響により激減した結果、5都市・地区を除き10件以下となった上、件数差が僅少となり、件数の同数も多くなった。

上位の都市名は、昨年11位（84件）であった千里地区が5位に浮上した他、前年と同じであった。

図表1-16 都市別 国際会議の開催件数（2011年～2020年）〈2020年10件超の都市を抜粋〉

開催都市	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
東京（23区）	470	500	531	543	557	574	608	645	561	63
京都市	137	196	176	202	218	278	306	348	383	26
神戸市	83	92	93	82	113	260	405	419	438	23
福岡市	221	252	253	336	363	383	296	293	313	15
千里地区（注1）	54	113	113	104	94	85	98	68	84	13

注1：「千里地区」は、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を含む。

注2：1つの国際会議が複数の都市にまたがって開催された場合、それぞれの都市において1件として計上している。

10

会場別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数）

— 国立大学が上位7位までを独占 —

開催件数では、各会場とも激減し、上位7位まで国立大学が並び結果として、外国人比率が最も高かったのは名古屋大学（20.9%）で、外国人参加者数では京都大学（351人）、九州大学（202人）、東京大

学（187人）の順となった。国際会議1件あたりの「平均参加者総数」及び「平均外国人参加者数」とも国立京都国際会館が最も多くなった。

図表 1-17 会場別 国際会議の開催件数、参加者数（2020年）〈開催件数5件以上の会場〉

会場名	開催件数	参加者総数	外国人参加者数	外国人比率（%）	1件当たりの平均参加者総数	1件当たりの平均外国人参加者数
京都大学	17	2,875	351	12.2	169	21
東京大学	10	1,457	187	12.8	146	19
神戸大学	9	904	54	6.0	100	6
大阪大学	9	741	66	8.9	82	7
九州大学	9	1,553	202	13.0	173	22
名古屋大学	8	640	134	20.9	80	17
東北大学	7	675	122	18.1	96	17
パシフィコ横浜	6	17,413	73	0.4	2,902	12
笹川平和財団ビル	5	904	98	10.8	181	20
国立京都国際会館	5	26,179	153	0.6	5,236	31

注1：本表では、複数会場を利用して開かれた同一会議は、会場をベースに集計してある。

注2：本表では、大学等の附属施設は大学での開催件数に含めている。また、複数都市にキャンパスがまたがる場合は、まとめて計上している。

注3：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。